

若年世代向け年金学習教材の開発

資料 1

厚生労働省年金局年金広報企画室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

学生との年金対話集会（わたしの年金とみんなの年金）

狙い：年金制度について、若い世代と一緒に「わたしの年金」と「みんなの年金」の2つの視点で考えること。

前半：講義方式



〇〇大学の皆さんと一緒に年金制度について考えたい。

わたしの年金とみんなの年金



厚生労働省年金局

総務課年金広報企画室長 古川弘剛

第1部：

年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？

第2部：

年金って破たんする？将来、先細っていく？

第3部：

「わたしの年金」について考えてみよう。
「みんなの年金」について考えてみよう。
年金制度の未来をみんなで創ろう。

後半：座談会方式



学生との年金対話集会（アンケート）

1. 本日の年金対話集会に参加した感想を教えてください。

- 全体を通してとても分かりやすく、**年金制度について本当に何も知らない人でも講演をしっかりと聞けばその仕組みはおおむね理解できると感じた**。これから一生に渡って生きるために関わっていく大事な制度なので、**詳しく内容を知って自らの今後を考える**、このような機会を設けていただき感謝している。
- 世間から批判されているイメージの多い制度ではあったが、**思った以上に緻密に制度が設計されている**ことを理解できた貴重な機会だった。**今後の制度の改革にも注目**していきたいと思う。
- 寿命が延びすぎた高齢者の生活を支える役割を、無理やり負わせられる悪質な制度という認識をしている学生はいると思うし、自分も少なからず思っているところがあったが、今回の講義を通じて**年金に対するイメージはかなり変わった**。
- 年金という**堅苦しいイメージ**があったが、難しいと思っている私でもイラストがわかりやすい図や話してくださった雰囲気聞いていて関心を持つことができた。
- 自分のための年金という事ではなく、**「みんなの年金」という、いつもと違う視点**から年金について考えることができた。
- 「私の年金」と「みんなの年金」という棲み分けによる考え方が非常にわかりやすかった。年金制度は、将来の予測できないリスクのためにあり、その点では「私の年金」でも「みんなの年金」でも共通する点なのだとわかった。ただ「私の年金」では、自分の将来のライフプランについて、「みんなの年金」では、日本の経済の将来について視点を変えて考える必要があると思った。
- メディア等から得られる情報のイメージから年金制度に**ネガティブなイメージ**を持ちがちだが、**実際に自分で仕組みを理解し考える**ことが重要だと思った。
- 自分自身、まだ年金受取に関して考えるような年齢ではなかったため、真面目に年金に関して考えたことがなかったが、そもそもの制度の概要や厚労省の方々がこれからどのように取り組んで行こうとしているのかを知り、これから**自分で考えてるよいきっかけ**となった。
- 働き方が多様化してきた事により従来の制度では対応が難しいケースも多数出てきており、必ず向き合わなければならないが解決するのが困難な問題に**どう解決していくのかについて考える**のは面白そうだった。
- 年金局の方の話を直接聞ける機会は滅多にないのでとても有意義な時間だった。年金制度は難しいですが今回の集会を通して理解を深めることができた。年金は人間が生きていくうえでとても重要な制度なのだと思った。今日学んだことを**家族に教えてあげたい**。

学生との年金対話集会（アンケート）

2. 前半の講演について

① 分かったことを教えて下さい。

- 少子高齢化社会においても**年金制度を存続させていくための仕組みが整えられている**こと、また**5年に一度の財政検証**を通じて現行制度のチェックがしっかりと行われていることがわかった。
- 今までは制度設計についてよく知らず、**年金制度はじきに破綻するのではないかと**考えることもあったが、5年ごとに制度を見直すなど、**年金制度が破綻しないような仕組みが存在している**ことを知り、少し安心した。
- **財源や定期的な制度の見直し**などは、知らないことが多かったので大変勉強になった。
- **将来のことがどうなるか予想するのが難しい**から、年金が必要なのだということが分かりました。
- 私は、今まで、18年間生きてきて、大きな物価変動を感じたことがなかったため、**1970年頃と現在の物価の比較を見て、とても驚いた**。年金制度は、人々の人生のさまざまなリスクに備えるために、非常に重要なものであることが分かった。
- 今回の集会に参加して、年金制度の存在意義を感じるとともに、今まで**自分がいかに人生に潜む、リスクについて考えたことがなかったのか**ということが分かった。
- 正直、**障害年金や遺族年金のことは**それほど知らなかったので勉強になった。
- 年金は国民年金の保険料が財源であると考えていたが、基礎年金の半分が税金を**財源**としていることがわかった。

2. 前半の講演について

② もっと知りたかったことを教えて下さい。

- 分かりやすさ重視だったこともあり、**専門的な学びについては少なかった**と感じた。また厚生労働省がしている仕事についてもより詳しく知れると、年金の根幹の部分まで考えることが出来たと感じた。
- **今後、年金という制度がどう移り変わっていくのか**、可能性の部分の話を聞きたいと思った。自分でも考えてみようと思う。
- 高齢者・女性などが働きやすい環境を作って、保険料を増やそうと思うと、支払う保険料が多くなるような働き方を選択する可能性もある。**働く環境の整備だけでは不十分であり、やはり年金の制度の見直しが重要**だと思う。その部分についてもう少し聞いてみたかった。
- **令和6年度に行われる制度点検**では具体的にどういった改善が行われる予定なのか知りたかった。
- 「**マクロ経済スライド**」をもっと詳しく知りたいと思った。
- 年金を受け取れる額の**世代間格差**について、多くの若者が注目するところだと思うため、もう少し**具体的なデータ**や考えを聞きたかった。
- 年金額の**賃金改定率と物価改定率**の説明をもう少しわかりやすく詳しく知れたらよかった。
- **iDeCo や積立NISA**についてもっと知りたかった。

学生との年金対話集会（アンケート）

3. 後半の意見交換について

① 分かったことを教えて下さい。

- 特に自分たちのようなこれから年金に触れる世代に関しては、年金のことをちゃんと知らない人が多いんだろうなと感じた。そして、そのため厚生労働省の方は広報の工夫をされていることが分かった。
- 思っていたよりも同級生たちが年金に興味を持っていたことに驚いた。
- 年金制度について厚生労働省の方から直接分かりやすい話が聞けたので良かった。グループの人数が多くて一部で話している感じがあったので1グループ10人くらいでできるともっとよかった。
- 授業では分からなかったことを多く学ぶことができた。もし次の機会があれば、ZOOMではなく、実際にお会いして直接お話を伺いたい。
- マクロ経済スライドは、景気が悪いときは基本的にやらないものになっているが、将来的な年金のことを考えると、景気が悪いときもやった方がいいという視点があること。
- 現在の賦課方式から積立方式に移行しようとした場合、移行期に保険料の二重負担などの問題が生じるということがわかった。
- 老齢年金が多いイメージが私たち自身にあるため、自ら資産運用すればよいのではないかと考えてしまうが、老齢年金以外の年金にも注目する必要があることがわかった。
- 経済的に困窮している家庭には、支払いを免除する制度がしっかり年金制度に備わっていることがわかった。
- 20歳になってからどのようにして年金を払っていけばよいのかということがわかった。

3. 後半の意見交換について

② もっと知りたかったことを教えて下さい。

- 年金に対する不信感を払しょくするにはどうしたらよいかという点について、もっと話したかった。
- 厚生労働省が世間向けに作成している資料から、年金制度がかなり緻密に設計されていることについて伝わらないように感じたため、どのようなプロモーション方法が効果的か話し合いたかった。
- これから年金を納める世代に対する更なる周知のためにはマンガや動画等のコンテンツだけでなく、例えば中学・高校くらいの公教育の中で年金について考える機会がもっとあっても良いと思うが、具体的な取組について聞いてみたかった。
- 職員の方々の主観的な意見をもっと聞いてみたかった。
- 厚労省の方が、年金が必要だと考える理由や、今後考えている政策などについてもっと聞いてみたかった。
- 年金を払わずギャンブル等にお金を使い、老後生活に困ったら生活保護を申請をすることが理論上可能であるが、私はコツコツ頑張ってきた人達の税金でそういった人を養う事には懐疑的である。個人の人権や自由と照らし合わせて考えると支給する他ないが、そこで生じる不公平についてどう考えているのかももう少し掘り下げて聞きたかった。
- 非正規雇用者の多くは雇用が安定しないため、老後のための貯蓄や私的年金の利用、資産運用が正規雇用者に比べて格段に難しいと思う。こういった人達に対して、年金の支給額を増やすなど、公的年金による社会保障の強化の可能性はあり得るのか聞きたかった。

年金学習教材の開発に向けた中学校・高校での授業の概要

■開催状況

- 令和3年6月 帝京高校（3年生）
令和3年7月 市川市立第二中学校（2年生）
市川市立塩浜学園（8年生）※小中一貫校
令和3年8月 角川ドワンゴ学園（N/S高等学校、N中等部）※オンラインで実施

《主な改善点》

- ①帝京高校での授業の経験から、学生との対話集会で使用している資料である程度理解してもらえることがわかった。また、学生からの意見を踏まえて、**学生と直接対話する機会を増やす**授業構成に変更することにした。
- ②市川市立第二中学校での授業の経験から、**中学生がどの程度理解できるのか**、相場観を把握することができた。また、「わたしの年金とみんなの年金」という訴求をやめることにした。
- ③市川市立塩浜学園の授業では、訴求ポイントを「みんなで創る**未来の年金**」に変更、また、**年金動画の上映部分を1回→2回**に変更することで理解の深化及び離脱者の削減を図ることができた。
- ④学生が主体的に参加できるイベントを切り口に関心を持ってもらう狙いで、角川ドワンゴ学園の説明会では「**年金広報コンテスト**」の紹介を追加した。

《授業内容》（市川市立塩浜学園の事例）

※年金漫画（年金のひみつ）は事前に送付

第1部：

厚生労働省って？
社会保険って？教科書になんて書いてある？

第2部：

年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？
→年金動画上映

第3部：

年金って破たんする？
将来、先細っていく？
→年金動画上映

最後に：

年金制度の未来を
みんなで創ろう。



アンケート結果

■ アンケートの主な設問

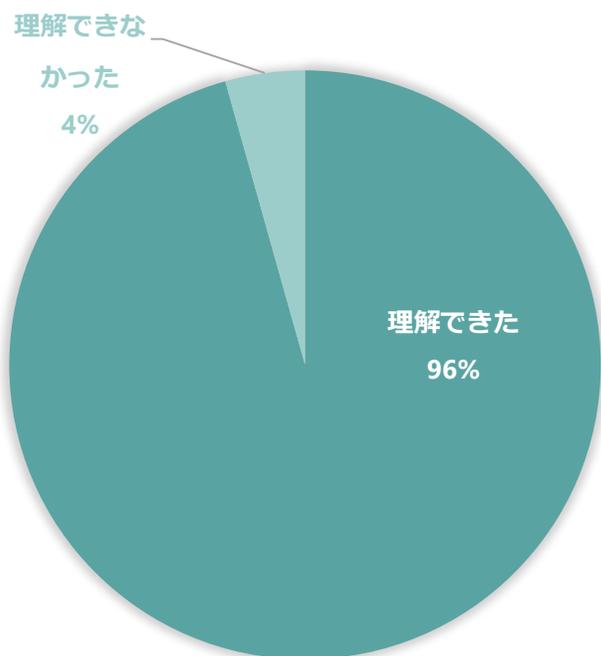
- ・ 資料の内容はどうでしたか？
- ・ 講師の説明はどうでしたか？
- ・ 20歳になったら「国民年金」に加入することを理解できましたか？
- ・ 年金制度を建物にたとえると、1階が国民年金、2階が厚生年金、3階が私的年金であることが理解できましたか？
- ・ 年金は、3種類（老齢・障害・遺族）あることを理解できましたか？
- ・ 年金について、もっとくわしく知りたいと思いましたか？
- ・ 年金制度は必要だと思いますか？
- ・ 年金制度が必要だと思った理由を教えてください。
 1. 老後の生活を支えるから
 2. 病気やケガなど万が一のために必要だから
 3. 世代と世代の支え合いだから
 4. 国民の義務だから
 5. 国の制度なので安心できるから
 6. その他（自由記入）
- ・ 年金制度が必要ではないと思った理由を教えてください。
 1. 自分で貯金をしておくので大丈夫
 2. 自分は病気やケガをしないので大丈夫
 3. 老後も働いてお金をかせぐので大丈夫
 4. 将来年金をちゃんともらえるか不安（もらえないかもしれないから）
 5. 将来のことはまだ考えていないのでわからない
 6. その他（自由記入）
- ・ 授業を受けての感想、意見など（自由記入）



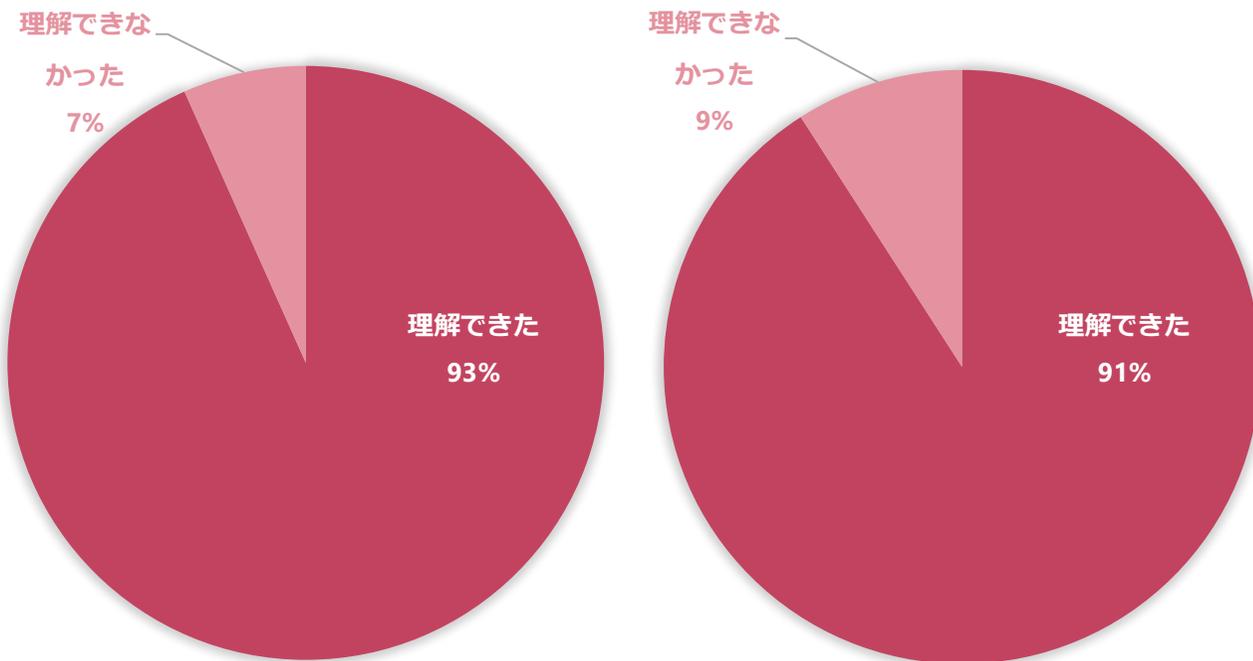
アンケート結果

■年金は、3種類（老齢・障害・遺族）あることを理解できましたか？

高校3年生



中学2年生

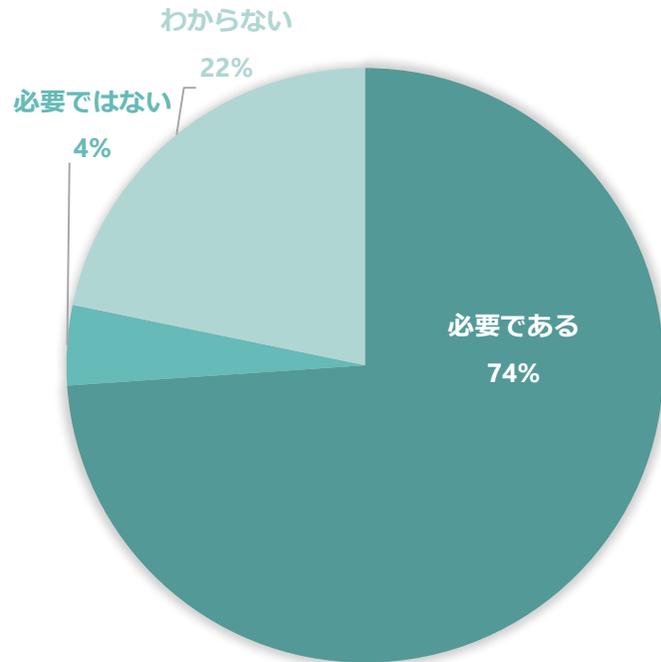


アンケート結果

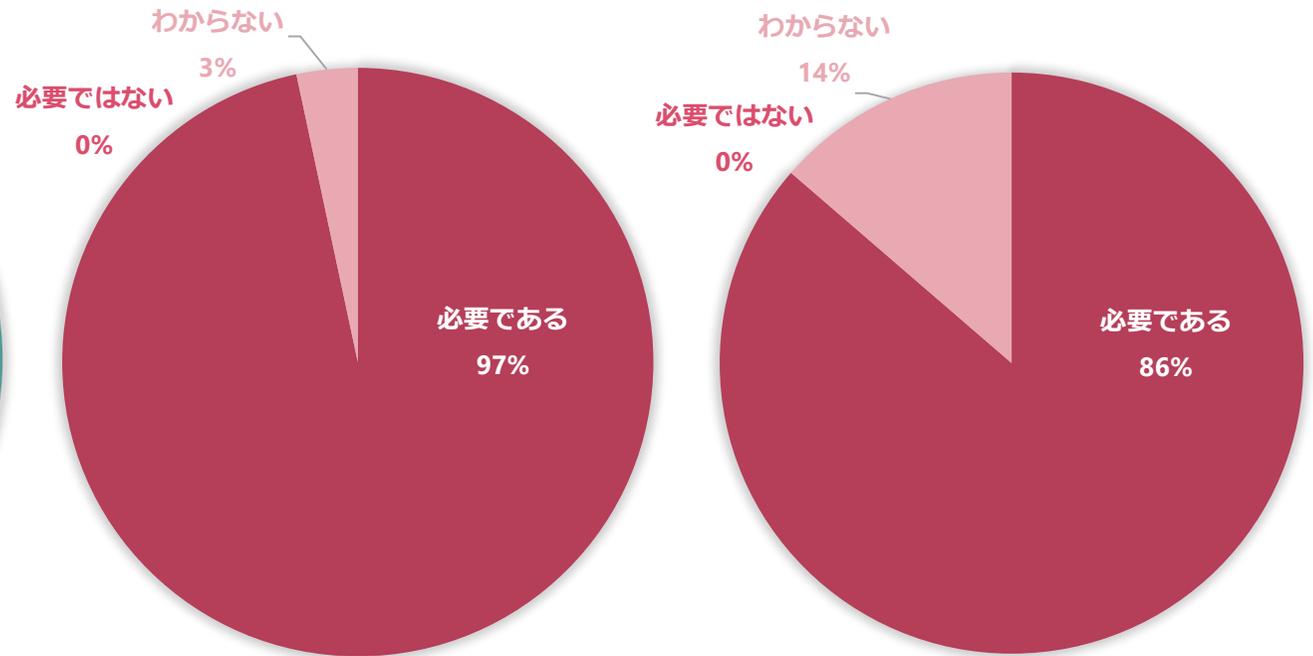
■年金制度は必要だと思いますか？

⇒ 高校生の方が中学生に比べて「わからない」、「必要ではない」と回答する割合が多い傾向であるものの、中学生、高校生ともに年金制度の必要性がある程度伝わったことが分かる。

高校3年生



中学2年生

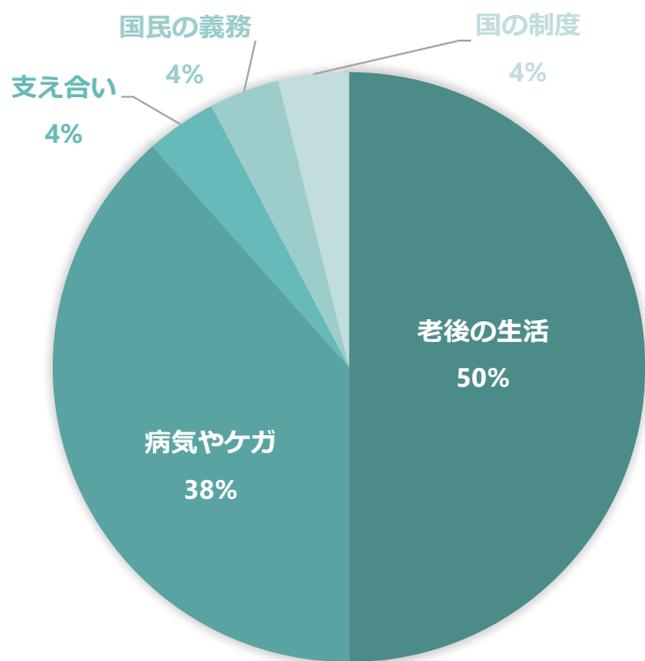


アンケート結果

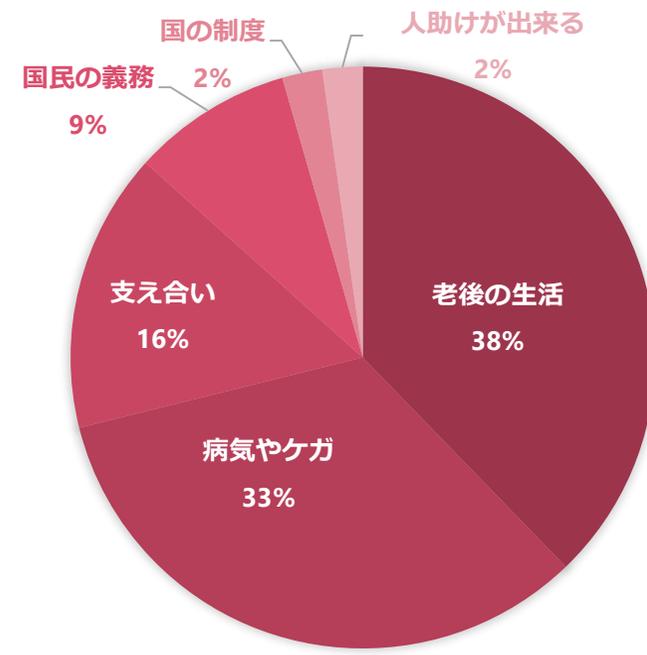
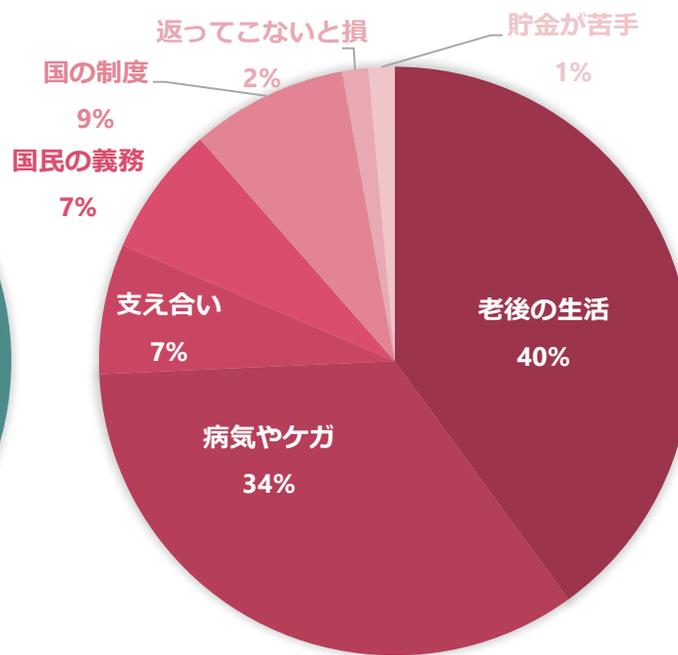
■年金制度が必要だと思った理由を教えてください。（複数回答）

⇒ 中学生、高校生ともに年金制度の必要性がある程度伝わったことが分かる。

高校3年生



中学2年生



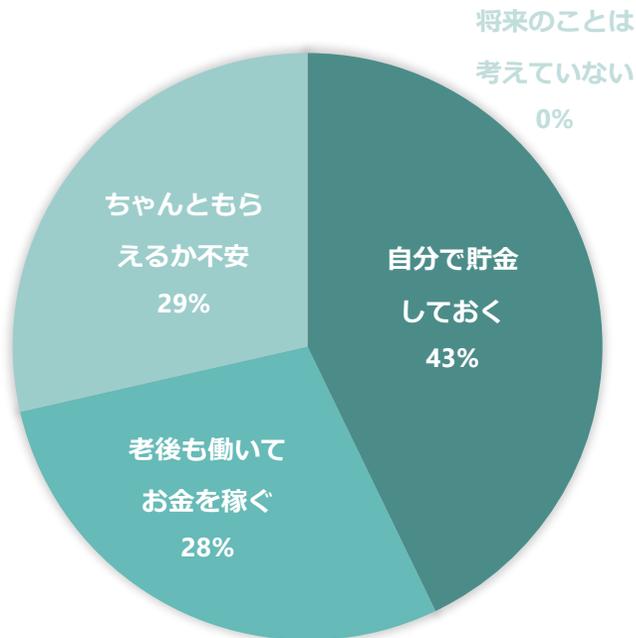
※高校のアンケートの際は「複数回答可」を明記していません。

アンケート結果

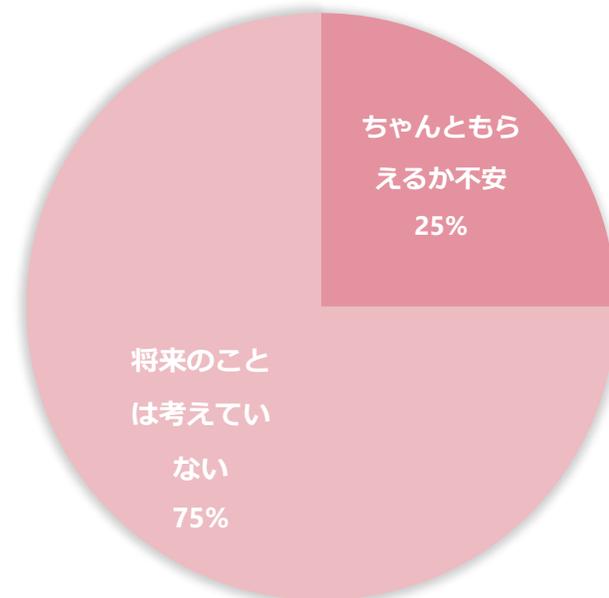
■年金制度が必要ではないと思った理由を教えてください。（複数回答）

⇒ 高校生の方が中学生に比べて「自分で貯金しておく」、「老後も働いてお金を稼ぐ」と回答する割合が多い傾向。中学生、高校生ともに「ちゃんともらえるか不安」という回答が一定程度見られる。

高校3年生



中学2年生



※高校のアンケートの際は「複数回答可」を明記していません。

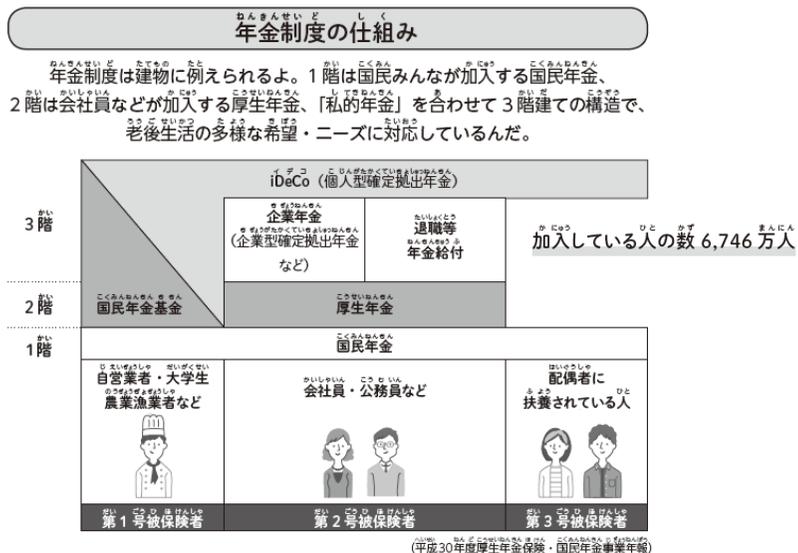
アンケート結果を基にした分析の1例

■年金制度を建物にたとえると、1階が国民年金、2階が厚生年金、3階が私的年金であることが理解できましたか？

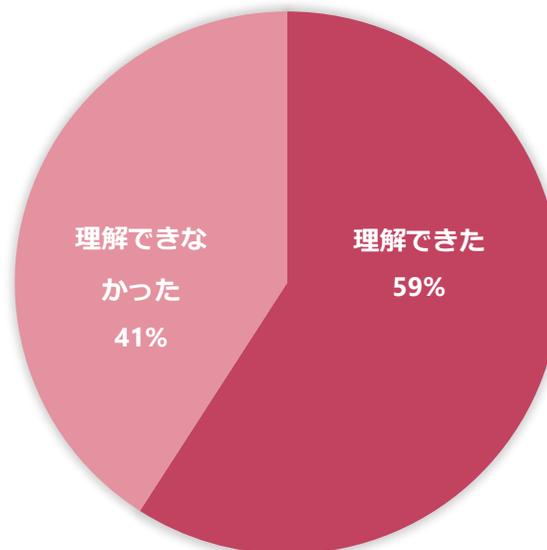
※あえて説明を省略した内容に関する設問（資料中「年金のひみつ」（まんが）に載せている図を抜粋して掲載はしている）

⇒ 授業でとりあげなかったテーマであり、この部分の理解度が他のテーマと比べて低いことから、アンケート全体の信憑性の高さが伺える。一方で、年金漫画（年金のひみつ）に掲載している図であり、年金漫画は事前に学生に目を通してもらっていたので、理解できたと回答した割合が一定程度いた。このため、この程度の内容が中学生が自分で資料を読んで理解できる（あるいは独学できる）境界線になると考えられる。

授業の資料（年金漫画P.32抜粋）



中学2年生



授業を受けた主な感想、意見

高校3年生

- ・政経で予習しましたがより深く詳しく年金について知ることができました。図の詳細があるとわかりやすいのではないかなと思いました。
- ・年金システムの成り立ち、必要性、メリットがわかると有難いです。
- ・年金を納めずに年をとってから、お金が足りなく、生活保護に逃げる人達の対策などはありますか？
- ・年金財政に影響を与えるもの①～③についての説明がちょっと難しく、内容が頭に入っていないことがあります。ただ、説明するのではなく質問などを入れて、雰囲気が高まることによって、内容が頭に入りやすいと思います。
- ・意見としましては、スライドの資料の内容は分かりやすかったのですが、ページをめくる中で、中学校等の生徒にとって自分の中で整理がつかず少し混乱してしまうかもしれないと思いました。同じ中高生でも、立場によって言葉を変えていくことで、皆が理解できるのではないかと思います。
- ・この先のことについては、P30の、どんな仕事をしていたか、何歳まで働きたいか、退職後はどんな暮らしたいか、そのためにはどれくらいのお金が必要ですか？という4つの質問についてです。この先のことはまだわかりませんが今までそこまで大きいこと（将来のこと）をあまり考えられていない中でも考え、授業後、友達と話し合ったら意見がわかれ、考えさせられることもありました。
授業の意見としては、私的年金・資産運用のところではイデコちゃんをつみだてフニーサ（P31）のことが書いてあったのでこの部分も紹介するとさらに楽しくわかりやすい授業になると思います。これから大人になり、年金という言葉が出てきても、子供ができたり年金のことを詳しくわかっていないお友達に教えたいです。

中学2年生

- ・年金は将来破綻してしまうのではと思っていたけど、授業を受けて、年金制度はしっかりと工夫されていて安心できたし、もっと年金のことを知りたいです。授業楽しかったです。
- ・なぜTVや本で年金が破綻するということが出まわっているのですか？
- ・動画が途中で有りその後も集中して話を聞くことが出来ました。
- ・少し未来の「不安だなあ～」と思っていたことが今日理解できたので安心した。古川さんがお笑い芸人のミキに似ていると思った。
- ・難しく3割くらい分からなかったけど、年金が無くならないならよかったです。
- ・説明するだけじゃなく、少し考える時間があると良いなと思いました。例えば、19ページの質問などで周りの人と話したりする時間があると良いと思います。今回はありがとうございました。
- ・もう少し年金制度のしくみや少子高齢化にむけての対策の説明を簡潔にまとめてくださると嬉しいです。
- ・内容が分かりやすく、年金は1種類ではなく3種類あったのは知らなかったから、知れてよかったです。ありがとうございました。
- ・年金についてのまんが、資料をもらったので、授業が終わったあとにそれで確認できた。年金についての知識が増えた。
- ・祖父が年金をうけとってるから、いろいろ知れてよかった。授業をしてくださりありがとうございました。

みなさん、アンケートに協力いただきありがとうございました。



年金学習教材の開発（構成案）

中学校・高校での授業や学生との年金対話集会を踏まえて、分かりやすいビジュアルや図表を活用した年金学習教材（初級編及び中級編）の作成を検討中。

初級編：みんなで創る未来の年金（案）

第1部：

厚生労働省って？
社会保険って？教科書になんて書いてある？

第2部：

年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？

第3部：

年金って破たんする？将来、先細っていく？
年金制度の未来をみんなで創ろう。

中級編：わたしの年金とみんなの年金（案）

第1部：

年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？

第2部：

年金って破たんする？将来、先細っていく？

第3部：

「わたしの年金」について考えてみよう。
「みんなの年金」について考えてみよう。
年金制度の未来をみんなで創ろう。

小学生向け

中高生向け

大学生向け～

■ 年金のひみつ



■ クイズ動画



■ 「学生との対話集会」

■ 年金学習教材（初級編）

■ 年金学習教材（中級編）

令和3年度（前半）の中学、高校、大学での開催実績（17校）

- 5月14日 名古屋大学（オンライン）
- 5月18日 一橋大学（対面）
- 5月20日 お茶の水女子大学（オンライン）
- 6月8日 上智大学（オンライン）
- 6月10日 北海道大学（オンライン）
- 6月17日 東海大学（オンライン）
- 6月21日 熊本大学（オンライン）
- 6月28日 帝京高校（対面） ★
- 7月2日 帝京大学（対面）
- 7月5日 市川市立第二中学校（対面） ●
- 7月7日 愛知県立大学（対面）
- 7月8日 愛知学院大学（前半：オンライン、後半：対面）
立教大学（対面、オンライン）
- 7月12日 市川市立塩浜学園（対面） ●
- 7月13日 成城大学（オンライン）
- 7月15日 盛岡大学（オンライン）
- 8月11日 角川ドワンゴ学園（N/S高等学校、N中等部） ★●（オンライン）

●	中学校
★	高校

なお、令和3年度（後半）は、7校程度の開催を見込んでいる。